

80. エゾアワビ *Haliotis (Nordotis) discus hannai* Ino 図版32

英名 ezo-abalone

露名 ガリオティス ディスク ハンナ  
Галиотис-диск Ханна

地方名(北海道) アワビ

漢字 えぞあわび  
蝦夷鮑

アイヌ語名 アイペ

【形態】 殻の輪郭はほぼ長楕円形で、ほかのアワビ類と比べ細長く平たい。殻の色は餌の種類により暗緑色から茶褐色、黒褐色と変化に富む。配合飼料で飼育された人工種苗\*は緑色だが、放流後に成長した部分は天然貝と同じ色になる。そのため、後方右寄りの稚貝\*時までの殻の色で放流貝を識別できる。殻の内側には、光沢のある真珠層がある。

巻き貝の証拠である螺塔\*は、殻の後方右寄りにある。殻の左端に沿って前方から螺塔に向かって、呼水孔\*と呼ばれる穴が1列に並び、前方から4～5個は開口するが、後方の古いものはふさがる。体層\*は著しく発達し、殻口\*も大きく、内唇\*の幅は狭い。

頭部には1対の眼柄\*と触角\*があり、その下側に口がある。頭部の後方に

は大きな足部\*があり、その背面にある発達した筋肉で殻に付いている。外套膜\*上には細かい突起がある。足部の後方には消化にかかわる中腸腺\*があり、産卵期には中腸腺の先端に生殖巣が発達する。呼水孔の下に当たる頭部の左側にはえらと排泄孔\*があり、貝殻と軟体部のすき間に流入する海水が呼水孔から排出される際に呼吸と排泄を行う仕組みになっている。

エゾアワビは、クロアワビ *Haliotis (Nordotis) discus discus* の北方系亜種\*として位置づけられている。クロアワビの分布域にエゾアワビを放流している場所では、エゾアワビの産卵時期がクロアワビよりも早いことや、エゾアワビが日中でも海底の岩の表面や側面に生息しているのに対し、クロアワビは日中は岩のすき間の奥に入っているなどの違いが報告されている。

**【生態】** エゾアワビはかつて、離島を含む北海道の日本海と津軽海峡、本州では青森県から茨城県までの太平洋沿岸、および朝鮮半島沿岸に分布していた。しかし、1935年ころから始まった移殖\*事業に加え、1970年代初めから行われた人工種苗放流により、北海道の噴火湾、本州日本海沿岸の秋田県、山形県をはじめ、南は佐賀県まで分布域が広がった。

成貝\*は一般に水深10mより浅い潮通しの良い岩礁域\*にすむ。稚貝は、ふつう潮間帯\*から水深10mまでの石灰藻\*で覆われた小型のれき\*の下や岩盤の割れ目に隠れていて、成長に伴い深みにある大型のれきや岩盤に移る。

雌雄異体\*で、殻長\*40～50mm、2～3歳で性成熟\*する。生殖巣は成熟\*すると、雄では黄白色か白色、雌では緑褐色になり、足部をめくれば外見で雌雄の判別ができる。産卵期は8～10月で、盛期は9月。成熟には水温が影響し、7.6°C以上の積算水温\*が500°C・日を超えると産卵が始まり、1,500°C・日に達するとほとんどの個体が、時化などの刺激に反応して放精・放卵する。

卵や精子は、呼水孔から海水中に勢い良く放出される。産卵数\*は大型の個体ほど多く、殻長60mmで30万粒、80mmで110万粒、100mmで200万粒。卵の直径は約0.23mmで、水温20°Cでは受精から12時間後にトロコフォア\*幼生\*となって泳ぎ出す。その後、巻き貝の形をしたベリジャー\*幼生となり、4～6日で着底\*し、稚貝に変態\*する。着底後1カ月で殻長約2mmに達し、1年後には20mm、3年後には40～50mm、5年後には60～80mm、8年後には100～120mmになる。

浮遊期間中は餌をとらない。底生生活に入ると、岩の表面などに付く珪藻\*類\*類が出す粘液などを細かい歯の付いた歯舌\*でこすりにとって餌とするようになる。その後、成長に伴って珪藻などの微小な藻類を食べ始め、さらに大きくなると大型海藻を餌とするようになる。特にコンブやワカメ、アラメなどの大型褐藻\*類は、エゾアワビの好む良い餌である。